

相模川河口で採集されたチワラスボについて

浜口 哲一

Tetsuichi Hamaguchi :

Notes on *Taenioides cirratus* (Gobiidae) Collected from Sagami River,
Kanagawa Prefecture

発見の経緯

1998年9月1日に、平塚市須賀の相模川河口左岸側で魚釣りをしていた、茅ヶ崎市立柳島小学校の村瀬隆浩君と飯島貴朗君が、河口の砂州の海側にできた水たまりで見慣れない魚を見つけ、網で採集した。魚は採集時には生きており、水槽で飼育していたが、その死後、家族などの勧めで平塚市博物館に持参した。

科のチワラスボ *Taenioides cirratus* と同定された。チワラスボは暖地の砂泥底の内湾に生息する種で、その分布は静岡県以南(中坊, 1993), 和歌山県以南(阿部, 1963)などとされている。林公義氏のご教示によれば、本県で採集された事例はないとのことである。なお、本個体の標本は平塚市博物館資料(HCM-51-815)として保存されている。

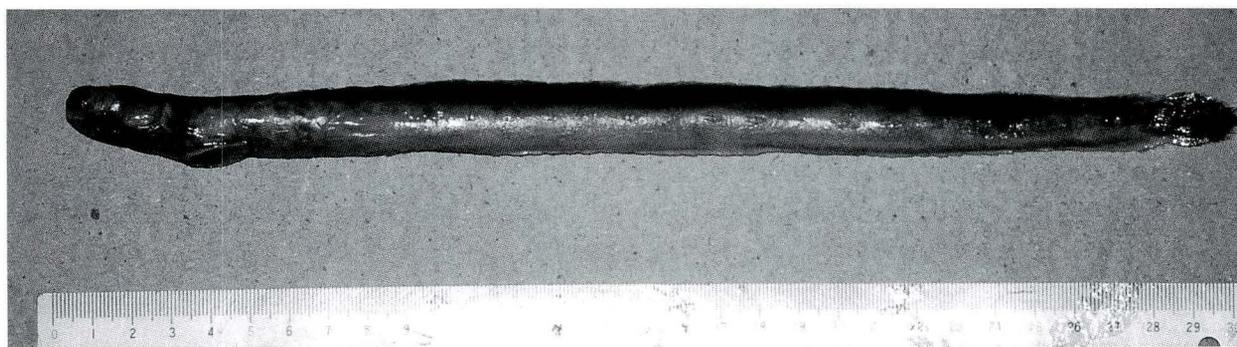


図1. 全身図.

魚の形態と同定

この魚は全長29.5cmで、ウナギ型の体型をしていた(図1)。全体が紫褐色で、背鰭の上端は黄色く、また体の側面中央には、2個が対になった淡黄色のキスマーク状の小斑が等間隔に20ヶ所認められた。目は、痕跡的で少なくともルーペによる観察では見出すことができなかった。背鰭と尾鰭は連続するが、その境目にははっきりした欠刻が認められ(図3)、腹鰭は左右が合一して吸盤となっていた(図2)。また、写真で明らかではないが、下顎にはひげがあった。



図2. 頭部側面.

これらの特徴から、本個体はハゼ

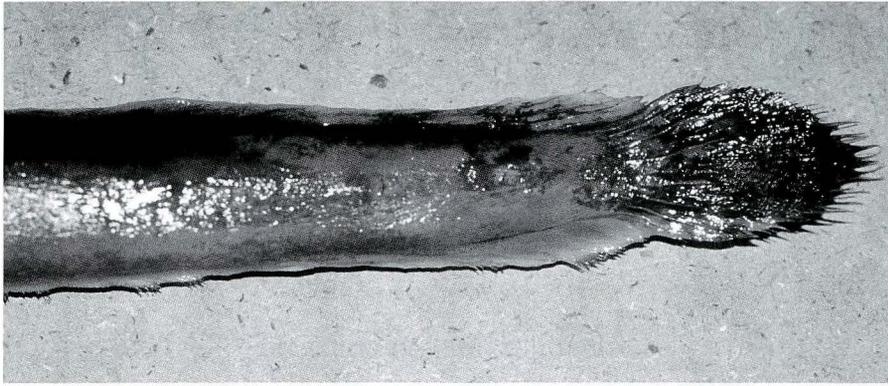


図3. 尾部側面.

謝 辞

貴重な標本を寄贈してくださった,村瀬隆浩,飯島貴朗の両君に感謝する。

文 献

阿部宗明,1983. 原色魚類検索図鑑.358pp.北隆館,東京.
中坊徹次編,1993. 日本産魚類検索.1474pp.東海大学出版会,東京.

(平塚市博物館)